

第6回 全日本高等学校ゼロハンカー大会 24分耐久レース

The 6th High-School ZEROHAN CAR

- 24min.Endurance Race -

大会要項



2008.12.23

主催 社団法人 全国工業高等学校長協会 全国自動車教育研究会 西日本地区
共催 岡山県高等学校工業教育協会
後援 岡山県教育委員会 倉敷市教育委員会
主管 おかやま山陽高等学校

全日本高等学校ゼロハンカー大会実行委員会

Official Home Page: <http://www.okayama-sanyo-hs.ed.jp/jidousha/zerohan/index.html>

第6回 全日本高等学校ゼロハンカー大会 24分耐久レース 大会要項

目次

- 2 実施要綱
- 3 競技規則
- 5 車両規則
- 7 走行時の注意事項
- 8 大会記録
- 9 会場案内図
- 10 レース保険加入について(ご案内)

Beat Your Heart!!

第6回 全日本高等学校ゼロハンカー大会 24分耐久レース

「この大会は、ものづくりの一環として同じレギュレーションに基づき、創意工夫した自作の車両で完成度を競う競技会である。」

実施要項

大会名称	第6回 全日本高等学校ゼロハンカー大会 24分耐久レース
開催日	平成20年12月23日(火) 祝日
会場	岡山県倉敷市西阿知町西原 「高梁川河川敷グラウンド」
主催	社団法人 全国工業高等学校長協会 全国自動車教育研究会 西日本地区
共催	岡山県高等学校工業教育協会
後援	岡山県教育委員会 倉敷市教育委員会
主管校	おかやま山陽高等学校
参加受付	参加料と別紙「参加申込書および保険加入申込書」を現金書留にて、エントリー期間内に大会事務局まで郵送すること。
エントリー期間	平成20年11月4日(火)～11月28日(金) 当日消印有効
受付・車検	平成20年12月22日(月) 15:00～17:00 平成20年12月23日(火) 8:00～8:30
参加費用	1台3,000円 および 保険料(別項参照)
大会役員	
会長	原田 一成 (おかやま山陽高等学校長)
顧問	佐藤 雅明 (全日本手作りゼロハンカー選手会長)
大会委員長	山本 茂 (全国自動車教育研究会 西日本地区理事/おかやま山陽高等学校)
副委員長	杉尾 良久 (全国自動車教育研究会 西日本地区理事/鹿児島情報高等学校)
競技委員長	白垣 登 (全日本手作りゼロハンカー選手会事務局次長 公認審判員A級「日本自動車連盟」)
実行委員	柚木 亨 (おかやま山陽高等学校) 小畑 義人 (おかやま山陽高等学校) 森 秀樹 (おかやま山陽高等学校) 各校引率者
事務局	『全日本高等学校ゼロハンカー大会』 大会事務局
住所	〒719-0252 浅口市鴨方町六条院中 2069 おかやま山陽高等学校 自動車科 内
担当	森 秀樹(もり ひでき)
電話	0865-44-3100
FAX	0865-44-6626
Eメール	mailto:info@okayama-sanyo-hs.ed.jp

競技規則

本大会の参加者は、本規定を理解した上で、これを遵守することに同意したものとする。

1. 競技方法

(1) 一次予選 「タイムアタック」 競技時間 3 分以内

ゼッケン番号順に、所定のコースを 2 周走行しタイム計測を行う。その時のベストラップにて、二次予選の組み合わせを行う。

スタート後 3 分経過時点で、2 周目を走行中の場合は、1 周目のタイムのみ記録される。また、スタートできない場合や、一周走行できなかった場合は、最後尾に付く。(複数いる場合はじゃんけんにて順位決めを行う)

(2) 二次予選 「10 分耐久レース」(予定)

所定のコースを 10 分間走行し、その時の周回数 上位 10 台(周回数が同じなら、一次予選のタイムの良い順)が決勝に進出する。

(3) 決勝 「24 分耐久レース」 **ピットイン有り** (5)項目参照

所定のコースを 24 分間走行し、チェッカーフラッグが振られて 3 分以内にゴールラインを通過する。その時の周回数(周回数が同じなら先にチェッカーフラッグを受けた順)にて成績を決定する。また、3 分以内にチェッカーを受けなければリタイヤとする。

(4) スタート方法 「ローリングスタート」

二次予選および決勝のスタートは、先導車に続いてコースを 1 周(オープングラップ)し、先頭車両がスタートライン通過後、チェッカーフラッグの合図によりレース開始となる。このオープングラップ中は前の車両を追い越したり、著しく隊列を乱してはならない。

また、スタート出来なかったり、オープングラップ途中で前の車両との間隔が 10m 以上開いた場合は大きく手を振って合図し、後続車の妨げにならないようにコースを譲ること。

著しく隊列を乱す行為があった場合は「再スタート」とし、行為があった車両は最後尾に着く。

(5) ピットイン (**決勝のみ**) 30 秒間の車両停止【所定の位置でエンジン停止】

決勝レース中、燃料補給や整備の有無に関わらず、1 回以上ピットインし、30 秒間ピット前で車両を停止させること。ピットレーン(コース～ピット間)は必ず押して移動すること。

コースインする場合は、オフィシャルの指示(グリーンフラッグ)に従うこと。

万一、ピットインが一度もなかった場合は、周回数 10 周減のペナルティとする。

(6) ゴール

レース終了後、チェッカーフラッグを受けた車両は、「車両停止位置」に停車させ、エンジンを止めて車両移動すること。

車両停止位置で止まらなかったり、エンジンを止めずに通過したものは**失格**とする。

2. 走行について

- (1) 原則として、競技車両はコース内側を走行し、外側を追い越すこと。**無理な追い越しや、悪質な進路妨害、パイロンをむやみに倒しながらの走行はペナルティの対象とする。**
- (2) いかなる場合もコースの逆走行やショートカットをしてはならない。
- (3) 競技途中で故障などで停止する場合は、他車走行の障害にならないようにコース外に停車(この場合はパイロンを倒しても良い)させること。オフィシャルの指示に従いコースに戻ることに。
- (4) ドライバーおよびオフィシャルを除き、レース中停止した競技車両に触れることはできない。触れた場合はリタイヤとみなす。

3. コースオフィシャル 各校1名以上

安全かつ公平に大会を運営するために、各校1名以上コースオフィシャルとして参加すること。

コースオフィシャルは、ブリーフィング(開会式後)に参加し、レースの運営を行うこと。また、ドライバーはレース中、コースオフィシャルの指示に従うこと。

4. 規定の改正または変更

本大会の大会役員は協議により、本規定を改正または変更することができる。

本規定に定められていない事項あるいは明記されていない事項については、大会役員が協議し、委員長が最終的な決定を下すものとする。

5. 異議申立て

- (1) 異議申し立てを行う場合は、異議申し立ての対象となる事態の発生から 20分以内に、書面にて各チームの代表者が提出しなければならない。
- (2) 大会審査委員会の裁定結果は、関係当事者にのみ口頭で通知される。
- (3) 競技中の規則違反、不正行為に対する抗議は当該競技終了後20分以内とする。

6. 競技車両の識別

各チームに割り当てられるゼッケン(受付時に配布)を、競技車両の両側面に識別しやすいように貼り付けなければならない。

7. 保険

参加チームメンバーは、本大会に関し所定の損害保険に加入しなければならない。主催者、主管および大会役員が一切の損害補償の責任を免除されていることを承知していなければならない。

8. 車検

下記の車両規定を満たさない場合および車検を受けていないものについては本大会への出場を認めない。また、車検時には、燃料タンクの燃料を抜いておくこと。

9. 競技の中止

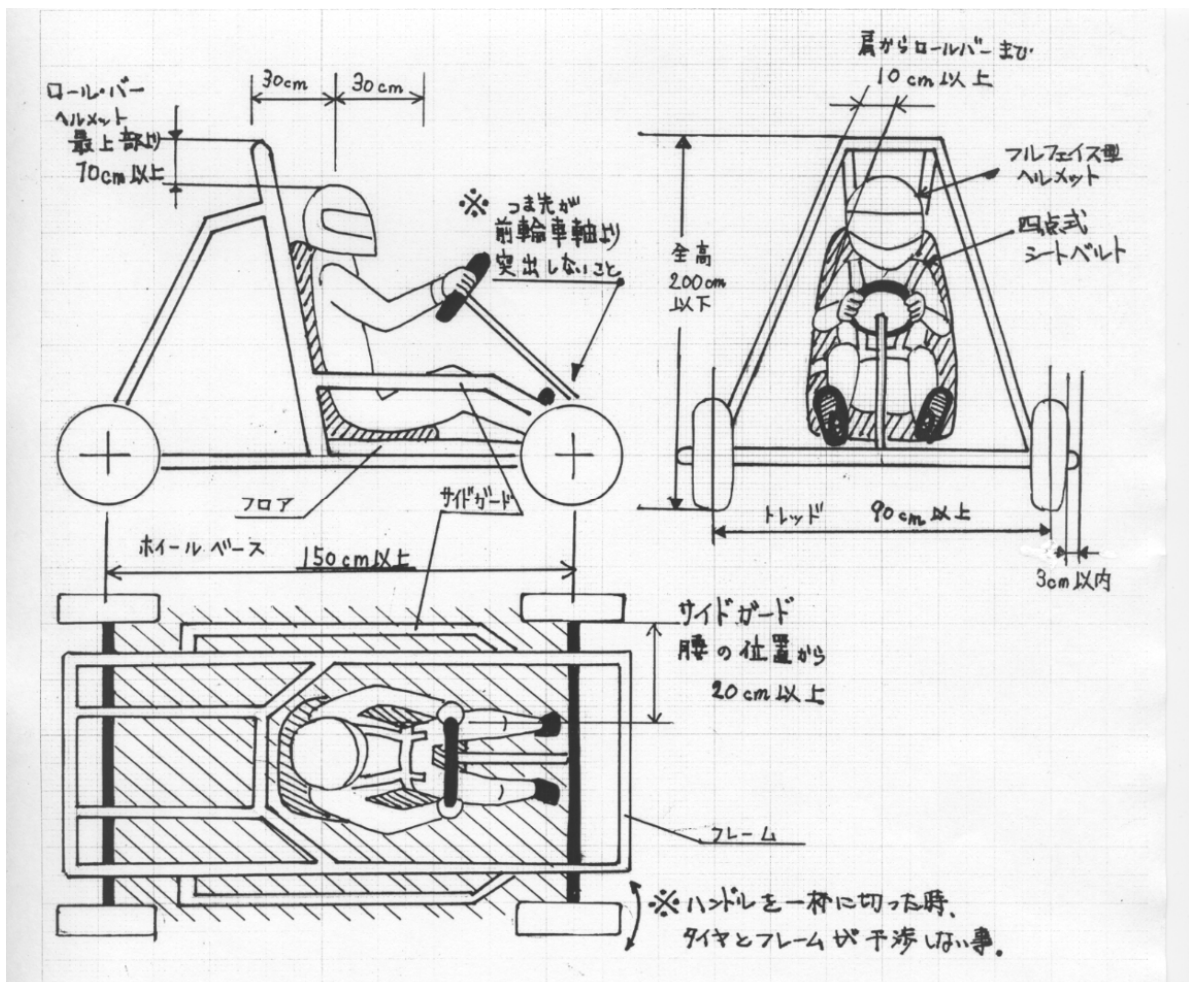
大会委員長が強風、豪雨、落雷などで競技の開催または続行が不可能と判断した場合。

車両規定

フレーム	<p>フレームは全て手作りとする。部分的であってもカート用のフレームを使用してはならない。かつ、車体の強度が十分であり、運転者の安全を確保できる構造であること。</p> <p>運転操作時、いかなる場合も前軸、および後軸より身体の一部でもはみ出さないこと。 (例)ペダル踏み込み時、つま先がはみ出さないこと。フロアより下に容易に足が落ちないような構造であること。</p>
車両サイズ	<p>ハンドル直進状態において運転者が乗車した状態で、以下のとおりとする。ただし、コーナリング中のホイールなどのはみ出しは可とする。</p> <p>(1) ホイールベース 1500 ~ 1700 mm (2) トレッド 900 ~ 1100 mm (3) 全高 2000 mm 以下</p>
エンジン	<p>2サイクルまたは、4サイクル・エンジンで排気量は 50 cc 以下で、メーカー刻印を有していること。吸排気装置、燃料装置の改造および変更は自由とするが、シリンダやコンロッドなどの変更による排気量アップは違反とする。</p>
トランスミッション	<p>改造および変更は自由とするが、容易に壊れない構造とすること。</p>
ホイール、タイヤ	<p>4輪であること。サイズの変更は自由とするが、スパイクタイヤは禁止とする。 ハンドルを一杯に切ったときに、タイヤがフレームと干渉しない構造であること。</p>
ハンドル	<p>丸型ハンドルで、操作が容易に行えること。</p>
ブレーキ	<p>同時に2輪以上作動し、十分な制動力が得られること。 走行中、制動操作が容易に出来ること。</p>
燃料	<p>市販のガソリン(レギュラーまたはハイオク)とし、各自持参とする。 2サイクル・エンジンの場合、潤滑オイルの混合方式、混合比は自由とする。</p>
シートベルト	<p>4点式以上のものを備え、取り付けが強固であること。 2点式のものは、たすき掛けでも良い。</p>
ロールバー	<p>フレームに溶接で強固に固定され、万一の転倒時に十分な強度があるものとする。 ドライバーが着座した状態で身体より、10 cm 以上の空間を有し、かつ、頭部の中心から前後 30 cm 以内の位置に設置されていること。 直径 20mm 以上の金属パイプが望ましい</p>
サイドガード	<p>車体両サイドに保護ガードを備えること。(運転者の腰幅より、左右それぞれ 20 cm 以上離して設置すること。) 直径 20mm 以上の金属パイプが望ましい</p>
服装(ドライバー)	<p>JIS C種 の規格に適合したフルフェイスを使用し、競技中は必ずアゴひもを使用すること。手袋については手首まで覆うものを使用すること。</p>

電気回路開閉装置 (キルスイッチ)	運転席に着座した状態で、容易に操作できる電気回路開閉装置を備えていること。
燃料タンク	十分な耐油性を具備し、容易に燃料が漏れ出さないこと。取り付け位置はエンジン本体、排気管の排出口の上部を避けること。 樹脂製のタンクを使用する場合は、転倒時に燃料タンクが破損しないように、 <u>金属で囲い</u> をすること。
ゼッケン	ロールバー上部後方に、左右側面から容易に確認可能な場所にゼッケンを貼り付ける場所を確保すること。ゼッケンサイズはA3用紙のサイズ(約297mm×420mm) ゼッケンは走行中、脱落や回転しないように固定すること。
車検	レース前に車検を行い、上記の車両規則に満たないものは、出場を認めない。 (車検時間内であれば、再車検を認める。) 車検項目:車両、ヘルメット、グローブ、消火器、救急箱
配線類	電気配線および燃料ホースなどは、テープやタイラップなどで、フレームに固定されていること。

決勝レース後、上位3台は本部テント前にて排気量の確認をしますので、上位3台の車両は速やかにシリ
ンダ・ヘッドを外せるように準備して置いてください。



走行時の注意事項（ドライバーの方々へ）

1. 「レース」前の準備

ヘルメット(フルフェイス)のあご紐は必ず締めてください。服装は長袖・長ズボンまたはツナギ服で、指先まで覆うグローブ(軍手でも可)を着用してください。マフラーやタオルなどを首に巻くのは巻き込まれる恐れがありますので厳禁です。

2. スタート位置までの移動

ピットからスタート位置までは自走せず、車両を押して移動させてください。本部テントの掲示板を事前に確認し、自分の出番よりも少し前にはスタート位置まで移動を完了させておいてください。また、出走できない時には早めに本部テントまで報告してください。

3. フラッグ(信号旗)について

(1) グリーンフラッグ（青旗）

スタート合図の時に振られます。また、ピットからコースインする時は、この旗の合図でコースインするようにしてください。

(2) イエローフラッグ（黄旗）

コースオフィシャルが持っている旗です。コース前方に故障車などがある場合など、走行に注意が必要な時に振られます。この旗が振られている場所から、故障車を通り過ぎるまでの区間は追い越し禁止区間となります。事故やペナルティにもなりますので見落とさないように走行してください。

(3) チェッカーフラッグ

指定周回数または指定時間経過後、レースを終了する時に振られる旗です。一次予選では、2周したときに振られ、二次予選はスタート後10分経過時、または決勝ではスタート後24分経過時に振られます。

(4) レッドフラッグ（赤旗）

ゴール後、車両停止位置で振られる旗です。この旗の位置で車両を止めて、エンジンも停止してください。停止線で止まらなければ「失格」となります。

また、多重事故などによりレース続行不可能となる場合は、レース中断の合図としても振られます。

(5) ブラックフラッグ（黒旗）

重大な違反やレース運営に悪影響があると判断された場合に振られます。速やかに減速してコース外に出てください。

4. ゴールした時

チェッカーフラッグを受けたら、後続車に注意しながら減速し、車両停車位置で停車、エンジン停止してください。エンジン停止後ピットまでは自走せずに、ドライバーまたはチームスタッフの手によって、車両を押して移動してください。

5. 結果通知

出場予定や結果など、本部テント横の「公式通知板」に掲載します。レース前後には確認してください。

全日本高等学校ゼロハンカー大会記録

第1回 全日本高等学校ゼロハンカー大会		
平成 15 年 12 月 21 日 (北房郡 ハイスターランド有漢) 参加:11 校 20 台		
優勝	広島県立広島工業高等学校	県工ブルーインパルス
第2位	奈良大学附属高等学校	M1
第3位	福岡市立博多工業高等学校	サンダーバード1号
第2回 全日本高等学校ゼロハンカー大会		
平成 16 年 12 月 23 日 (福山市 みろくの里グラウンド) 参加:11 校 18 台		
優勝	広島県立広島工業高等学校	県工ブルーインパルス
第2位	岡山商科大学附属高等学校	ラーズグリーズ
第3位	該当なし	該当なし
敢闘賞	広島県立三次青陵高等学校	
第3回 全日本高等学校ゼロハンカー大会		
平成 17 年 12 月 27 日 (福山市 みろくの里グラウンド) 参加:10 校 18 台		
優勝	福岡市立博多工業高等学校	ARROW
第2位	広島県立呉工業高等学校	KMC3号
第3位	広島県尾道高等学校	エクリプス2
第4回 全日本高等学校ゼロハンカー大会		
平成 18 年 12 月 27 日 (倉敷市 高梁川河川敷グラウンド) 参加:9 校 21 台		
優勝	岡山県立笠岡工業高等学校	シライシ 50RS
第2位	福岡市立博多工業高等学校	博多参号青式
第3位	岡山理科大学附属高等学校	理大1号
第5回 全日本高等学校ゼロハンカー大会		
平成 19 年 12 月 23 日 (倉敷市 高梁川河川敷グラウンド) 参加:14 校 28 台		
優勝	岡山県立東岡山工業高等学校	橘花
第2位	岡山県立東岡山工業高等学校	HR06 改
第3位	広島県立三次青陵高等学校	みどりヶ丘

第 6 回 全日本高等学校ゼロハンカー大会 24 分耐久レース

開催場所 「高梁川河川敷 グラウンド」 岡山県倉敷市西阿知町西原



山陽自動車道「玉島インターIC」倉敷方面より、「船穂支所」方向へ左折してください。
「船穂支所」通過後、右折してください。「船穂橋」を渡り、土手沿いに左折してください。
土手沿いを約 600m 直進してください。(左手に会場が見えます)
会場入り口は鋭角に進入するようになりますので、対向車などには十分ご注意ください。



第 5 回大会 会場風景

エントリーチーム
代 表 者 各 位

第 6 回全日本高等学校ゼロハンカー大会事務局

レース保険加入について(ご案内)

前略 このたびは、本大会にエントリーいただきまして有り難うございます。

さて、大会の安全に関しましては大会規則の遵守等、皆様方のご理解ご協力をお願い申し上げておりますが、もし競技車両走行に関わる事故が発生した場合の補償は原因者の負担となります。

そこで、万一に備えて必ず下記の保険に加入してください。

同封の「参加申込書及び保険加入申込書」に必要事項を記載の上、大会参加費とともに現金書留にて、大会事務局まで申し込みをしてください。

草々

記

保険種類	保 険 料	保障内容
ドライバーの保険	ドライバー1名につき ¥2,000	死亡・後遺症障害 500万円 入院日額 3,000円 通院日額 2,000円

保険種類	保 険 料	保障内容
参加者の保険	参加者・観戦者1名につき ¥300	死亡・後遺症障害 500万円 入院日額 3,000円 通院日額 2,000円

競技車両の保険は、競技車両1台ごとに加入してください。

参加者の保険は、万一のことを考えて、チームメンバーだけでなく、当日応援および観戦に来られる方も、ご加入ください。

全日本高等学校ゼロハンカー大会事務局

〒719-0252 浅口市鴨方町六条院中 2069

おかやま山陽高等学校 自動車科内

Tel.0865-44-3100

Fax.0865-44-6626